

②6 清水西海岸高潮対策事業（L型突堤工）

受賞機関 静岡県 静岡土木事務所

キーワード 海岸保全と景観改善の両立、保全技術会議の設立、ハイブリッドの構造

全建賞審査委員会の評価ポイント

世界文化遺産「富士山」の構成資産として登録されている清水海岸「三保松原」において、景観の改善を図るため既存の消波ブロックをL型突堤に置き換えた事業。三保松原白砂青松保全技術会議を設置し、海岸保全と景観改善が両立できるよう検討を行い、景観に配慮しながら保全する初めての海岸保全施設であり、他に例のない事業である点が評価された。

1. はじめに

清水海岸は、駿河湾西側に位置する砂礫海岸で、“名勝三保松原”に代表されるように、富士山や伊豆半島を望むことができる白砂青松の風光明媚な海岸である。このため、砂浜を保全し、かつ三保松原にふさわしい景観を残すために、「ヘッドランド工法」や「養浜」を中心とした侵食対策を進めてきた。

しかし、三保松原が世界文化遺産「富士山」の構成資産として登録される際に、侵食対策のために設置した消波堤が景観上望ましくないとの指摘を受けたことから、背後地の防護と景観改善を両立させる対策として、既存の消波堤に替え、「L型突堤と養浜の組合せ」による対策を行うこととした。



三保松原から望む富士山

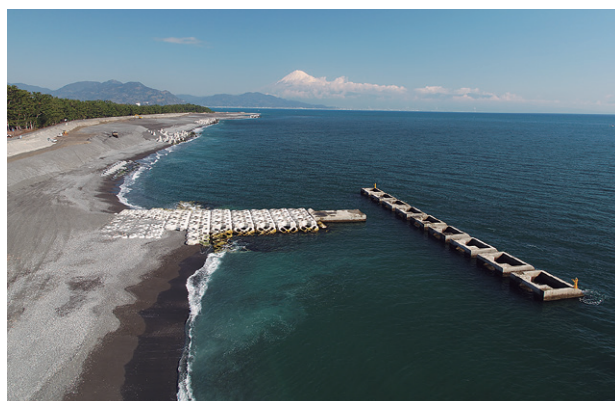
2. 事業の概要

海岸工学、景観、文化財の有識者等からなる『三保松原白砂青松保全技術会議（座長：近藤誠一 元文化庁長官）』を平成25年8月に設立し、世界文化遺産にふさわしい景観に改善するための検討を重ねた。検討にあたっては、天端高を抑えて目立ちにくい、被覆ブロック張構造の既設L型突堤周辺の状況を参考に、海浜シミュレーションによる海浜形状の変化やイメージパース、観光客

の主な視点場からの海岸構造物の見え方等を踏まえて検討し、将来的には施設に頼らない海岸を目指すものの、侵食が進行中である現時点の対応として、新たなL型突堤整備と養浜の組合せによる対策を選択した。

施工予定箇所の海底地形が急勾配なため、既設L型突堤のような被覆ブロック張式では高波浪に対する安定性確保が困難となることから、波が直接作用する横堤に有脚式（透過構造）を採用し、沿岸方向に移動する漂砂を補足する縦堤に、被覆ブロック張式（不透過構造）を採用するハイブリッド構造とした。

三保松原周辺の養浜は、防護上必要な区間を中心に、視点場から構造物が見えにくい高さで施工するなどの配慮を行った。



完成したL型突堤

3. 事業の成果

横堤設置が完了していた平成29年10月に観測史上最大規模の台風が来襲したが、横堤と養浜の効果により甚大な被害は発生せず、防護面での効果が確認された。

一方で、L型突堤の完成を受け、既設消波堤の撤去に着手した。引き続き、海浜部のモニタリングを行い、養浜量・養浜位置等を順応的に見直ししながら、厳しい海象条件を有する三保松原における景観改善を推進していく。

4. おわりに

世界文化遺産登録以降、三保松原の観光客数は増加している。L型突堤整備や養浜などの海岸の景観改善対策が、松原保全等の取組とともに、地域活性化や三保松原の文化的な価値の維持・向上に資することを期待する。

賛助会員 五洋建設(株)